

様式2 令和4年度 清瀬市立 清瀬第五中学校 学校評価表

学校教育目標		育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	
・和敬:明るく思いやりのある人 ・思索:深く静かに考える人 ・剛健:たくましく、がまん強い人		○育成を目指す資質・能力 ・主として学びに向かう力、人間性等の涵養 ・主として思考力、判断力、表現力等の育成 ・主として心身の健康、豊かなスポーツライフの育成 ○特色ある教育活動 ・体験的な学習に力を入れ、「社会や世界に向き合い関わり合い自分の人生を切り開いていく力」を育成する ・食育やキャリア教育の視点から農業体験学習を中心とした学習を実施し、自ら学び考える力や課題解決力を高める ・SDGsをテーマとして、修学旅行や校外学習などの体験学習を中心とした教育活動を実施し、主体的に判断し課題を発見・解決する力を育成する ・人間としての生き方を考え、主体的な判断の下に行動し、自立した人間として他者と共によりよく生きるための基盤となる道徳性を身に付けさせる	
目指す学校像(ビジョン)			
【目指す学校像】	○生徒にとって、楽しく、行きがよい(生きがい)のある学校 ○保護者にとって、親しみがあり、地域に誇りに思われる学校 ○教職員にとって、自己研鑽に励み、協力して進める学校		
【目指す児童・生徒像】	○和敬…明るく思いやりのある人ー自他の生命を尊重する心の育成 ○思索…深く静かに考える人ー思考力、判断力、表現力の育成 ○剛健…たくましく、がまん強い人ー心身の健康、豊かなスポーツライフの育成		
【目指す教師像】	○常に生徒のことを第一に考える教師 ○日々研修に努め、チャレンジ精神をもって授業の改善、充実に取り組む教師 ○体罰や不適切な指導を許さぬ教師		

前年度までの学校経営上の成果と課題

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策
		評価 取組指標 成果指標	課題及び次年度以降の改善方策(案)	学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策
確かな学力の向上	ICT機器を活用して、理解の定着を図れるようにする。	3	3	「ICT機器を利用して、理解の定着を図れるようにする」という質問に対して80%の教員が肯定的な回答をしている。また、「先生方はわかりやすい授業を行っている」に対して89%の生徒が肯定的な回答をしており、一定の成果は出ているが、次年度はそれぞれの肯定的評価が90%を超えるように、校内研修等を通じてICTの活用をより一層促進していく。	ICTの活用に関しては、一定の効果が出ているので次年度以降も校内研修をしてICTをより有効に活用できるように取り組んでいきたい。また、ICT以外にも、授業内容の工夫を図り、生徒の理解の定着を図っていけるようにする。
	授業のねらいを明確にし、流れ、振り返りを視覚に訴えた授業を行う。	4	3	学校全体で研修を行い、時間の意識や目標の提示等を意識した授業を行うことなどメリハリをもって諸活動に取り組むことを改めて確認した。その結果「目標の提示・導入の工夫・ふりかえりなどを行った」という質問に対して92%の教員が肯定的な回答をしており、今後も継続して取り組んでいく。	本日の目標や授業の流れを提示することで、一定の効果が出ているので、次年度以降も取組を続けていきたい。また、学習内容の定着をより一層図るために、家庭学習も含めて、振り返りや確認等ができるような授業展開を工夫していく。
豊かな心の育成	「いつでも誰とでも相談週間」やいじめ調査、学級環境適応感尺度(アセス)を実施し、生徒一人一人の実態を把握・分析して指導に活かす。	4	3	いじめアンケートとやアセス、面談等で生徒一人一人の実態を把握し、指導に活かしてきた。一方で、生徒への「困りごとや悩み事の相談にのってくれる先生やSCがいる」という質問に対して否定的な回答をした生徒が14%、「わからない」と回答した生徒が19%いるなどまだ生徒の悩み等に十分に相談できていないため、次年度は声掛け等を増やしていく。	生徒から相談をしたり、SOS出ししたりしやすいように信頼関係の構築に努めていく。また、アンケートやアセス、面談を定期的に実施していくことももちろんのこと、普段から生徒一人一人の様子を常に観察して、必要に応じて声掛け等を行っていく。
	学級活動や総合的な学習の時間、特別の教科道徳、生徒会活動(あいさつ運動、ボランティア活動等)を通し、公共心や社会性を育む。	4	3	教員のアンケートでは91%が肯定的な回答をしているが、生徒のアンケートでは82%にとどまっているため、より生徒の実態に即した活動を展開していく必要がある。また、生徒の回答で「わからない」と回答した割合が8%程度いるため、活動の意義や内容を丁寧に説明していく、「わからない」という回答を減らしていく。	公共心や社会性に関しては、総合的な学習の時間や様々な体験活動を通じて育ててきていると感じる。また、あいさつについても普段から活発に飛び交っている。一部、「わからない」と回答した生徒がいるため、道徳を始めとして活動の意義に関しても丁寧に説明していく。
健やかな体の育成	専門家による指導や講演などを実施し、生徒が体験的に学ぶ機会を設ける。	4	3	「車いすバスケットボール体験」「俳句教室」「職業講話」など感染症対策に十分に留意した上で、専門家による講演や体験的な学習の機会を多く設けることができた3学期にも講演や体験活動を多く設定しているため、今後この数値は変化する可能性があるが、否定的な回答も1割程あったため、体験の意義等を十分説明していく。	本校の特色ある活動の一つである体験学習や外部講師を招いての講演等は、生徒にとっても大きな意義があるものと考えられているので、今後も感染症対策に留意しながら実施していく。また、否定的な回答を減らしていくために、活動の意義に関しても上記のように丁寧に説明していく。
	健康・安全に係る取組を生徒会活動などを通して実施し、生徒の主体性を育てる。	4	3	「あいさつ運動」や「服のチカラプロジェクト」、「薬物乱用防止教室」など生徒が主体となって多くの活動に取り組んだ結果、生徒の社会性や主体性等が大きく向上した。また、「赤ちゃんのプロジェクト」を久しぶりに実施することができたが、直接赤ちゃんと触れ合うことで生命尊重について学ぶ良い機会となったため、今後も継続して行っていく。	「赤ちゃんのチカラプロジェクト」や生徒が主体となった「服のチカラプロジェクト」や「薬物乱用防止教室」等の健康・安全に係る取組については、次年度以降も継続して取り組んでいく。
特別支援教育の充実	ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業展開(ねらい・流れ・振り返りの表示)の推進、教室環境の整備を充実する。	4	3	「ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業(教師の言葉かけや授業の進め方など)の実施や、教室環境の整備を推進する」という質問に対して96%の教員が肯定的な回答をしている。また、「分かりやすい授業を行っている」という質問に対する否定的な回答が保護者・生徒ともに5%未満と一定の効果が出ているので今後も継続していく。	「わかりやすい授業」を実践してくださる先生方に、保護者・生徒ともに納得している結果が出ていると思います。一方で、否定的な回答については、どのような授業を希望しているのか回答があると参考になると思います。
	サポートルーム教員との連携を密にとり、支援を必要とする生徒の情報を全教職員で共有し、組織的に対応する。	4	4	校内委員会を毎週開催し、サポートルーム教員・スクールカウンセラー・通常級教員・管理職が参加し定期的に情報共有を図っている。また、サポートルーム通信の発行を通して、生徒にも様々な情報を発信しており、今後も特別支援教育の充実を図っていく。	来年度も、サポートルームの教員やスクールカウンセラー等と連携を密にとり、情報共有を徹底し組織的に対応していく。サポートルーム通信の発行についても、定期的に行っていく。
本校の特色	学校ホームページと一斉メールを有効に活用し、日々の教育活動を適時的に的確に掲載・発信する。また、行事等においては適宜動画の配信を行い情報の発信を進める。	4	4	ホームページを毎日更新していることは、学校の様子が分かりやすく、コロナ禍でなかなか学校に行けない保護者や地域の人達にとって保護者にとり、とてもありがたいと思います。一方で、全体として保護者のアンケート結果では「わからない」という回答が多かったのですが、これは単に試験や成績の結果しか、見ていないからではないかと思うので、開かれた学級づくりを今後も推進していきたく思います。	ホームページで日々の活動の様子等を発信することは、保護者評価や学校関係者評価でも高い評価を頂いたので今後も継続していく。また、ホームページ以外でも学校の様子を知ってもらえるように、コロナ感染症に留意しつつ、参観の機会等を増やしていき、開かれた学校をつくっていく。
	保護者を含めた、地域人材の有効活用を積極的に行う。	4	3	花の苗を植える活動等を地域の方々や協力して行ったり、地域で働く方に職業についての講話をしていただくなど地域との交流を活発に行っている。また、「学校以外の人の話を聞くことは生徒の成長に役立っている」という質問に対する肯定的な回答が97%と、様々な活動において地域との連携を深めており、今後も継続していく。	花の苗を植える活動は、地域の中でも話題になっていてお話を聞きまします。学校という枠を超えて、自分が住んでいる地域の方々や交流すること、個の成長にもつながり、とても大切な機会だと思います。いつも、たくさんお花が咲いていて、五中の生徒さんに迎えられている思いがします。コロナが空けたら、さらに活発にボランティア活動等を通じて、地域の方々との関りが増えていくことを望みます。